

## “With+Object+Ing”形について

鏑 木 光 朗

“with+名詞（又は代名詞）+ing”形は、英語の文に時々現われる形であり、その意味は明らかであるが、文法上の用法に就て少しく考察して見ようと思う。“with+名詞（又は代名詞）+ing”形に於て with の後に来る名詞（又は代名詞）は with の目的語と考えられるので、以下その形を“with+object+ing”形とする。例えば、

The old mother came with the sunset falling fair on her face……(1)

(1)の文に於て、下線の部分はその形に当るのである。但しこの場合、ing 形の後に更に修飾語句が付いているが、それら修飾語句全体は単に ing 形を修飾するにすぎないので、ing 形の中に含めて差支えないと思う。従って全体の形としては with+object+ing 形と考えて良いと思う。さて(1)の文全体の意味を考えると、「その老母は夕日を彼女の顔に美しく受けながらやって来た。」となり、the old mother came という意味と、with the sunset falling fair on her face という意味とは同時に起ったことを表わしていると言える。換言すれば、with 以下の事柄は、老母がやって来た時の状態を述べているのである。

従ってこの場合の前置詞 with は、形の上では the sunset を目的語としているのであるが、意味の上からは the sunset だけを目的語としているのではなくて、the sunset falling on her face 全体を目的語としていると考えられるのである。では falling on her face は一体(1)の文に於て如何なる文法上の役目をしているのか。先きに意味の上から考えたところよりすれば、falling on her face は the sunset を目的語とする他動詞の如く訳したのであるが、実際は falling は自動詞であるので、直訳すれば with 以下の文は、「夕日が彼女の顔の上に美しく落ちかかって」となり、the sunset は意味上 falling on her face の主語になっているのである。以上より考えて、

with the sunset falling on her face なる形に於ては、前置詞 with の目的語である the sunset が意味上 falling on her face の主語になっているといえるのである。即ち、with の目的語である the sunset と falling on her face との間には、主語+述語の関係即ち、nexus 関係 (Jespersen 説) があることになる。従って falling on her face 特に falling は with の目的補語となり、現在分詞であると言える。これは普通の文の形式 S+V+O+O.C. (第五型式) 例えば I saw him running なる文に於て、him と running との間に he ran なる nexus 関係のあるのと同じ関係が、(1)の文の下線の部分にも考えられると思うのである。

以上(1)の文の下線の部分の形 with+object+ing 形を用法上 with+object+O.C形 (O.C とは Objective Complement の略) と考えることが出来るのである。

以上の考え方からして一応この形は意味上理解せられるのであるが、以下同様な形式の文を更に調べて見ることにしよう。その例を以下に挙げることにする。即ち、

Scrooge's nephew comes in, with his face smiling and his eyes sparkling. ……(2)

What the Earl saw was a graceful childish figure with lovelocks waving about the handsome, manly little face.……(3)

(2)の文に於て下線の部分は、形の上からも又意味の上からも(1)と全く同じであり、with 以下の事柄と with より前の事柄とは同時的で、with 以下は本動詞(主文章の動詞)の表わす動作が起った時の状態を示している。

(3)に於ては形の上では全く同一であるが、with 以下の事柄はその前の本動詞というよりは寧ろその前の名詞 a graceful childish figure を修飾している点が異なっていると言える。然し乍ら、(2)、(3)何れの文も with+object+O.C. 形という点では(1)と全く同一であり、文法上の用法も大体同一であるといえるのではないかと思う。さて以上と同じ事は with+object+ing 形以外の類似した形式の文に於ても考えられるのである。その例を次に述べることにしよう。即ち、

Peter follows, with Tiny Tom on his shoulder.……(4)

Bob Cratchit stands up with carving knife in his hands.……(5)

This shed was a room with a roof in such a poor condition.……(6)

以上(4)、(5)、(6)の各文に於て下線の部分を見ると、with の後にその目的語に当る名詞が来ているのは今迄述べて来た文と同じであるが、その後に何れも句が付いている。然し意味を考えると、この句は何れも形容詞の働きをしていることが分り、更に目的語と句との間にも、主語+述語という nexus 関係のあることが分る。但しこの場合は直接に目的語と句とが意味上結ぶのではなくて、be 動詞の助けを必要とするのである。即ち(4)の文に於ては、T. T. is on his shoulder といえるし、(5)の文に於ては、

Caring knife is in his hand, (6)の文に於ては、A roof is in such a poor condition といえるのである。従ってこれらの形容詞も又目的補語の役目をしているのであり、(4)、(5)、(6)の各文は形の上からは(1)、(2)、(3)の各文と異なるけれども、文法上の用法からは矢張り with+object+O.C. 形に包含することが出来ると考えられるのである。次に形の上から with+object+O.C. 形の O.C. に当る部分に形容詞の来る場合を考えて見よう。即ち、

Yon must not speak with your mouth full.……(7)

We saw Moses coming back with the deal box strapped round his shoulders.……(8)

(7)の文に於ては with の目的語 your mouth と full との間には your mouth is full といえるので、full は矢張り目的補語の働きをしているといえる。即ち、with+object+O.C. 形である。

(8)の文に於ては with+object の後に来る strapped round his shoulders の strapped は strap の過去分詞で受働の意味を持った動詞である。即ち、下線の部分の意味は「もみの木の箱が彼の両肩の廻りに革ひもでくくりつけられて」となるのである。即ち、the deal box と strapped との間にも the deal box is strapped round his shoulders といえるのであり、過去分詞 strapped も目的補語の働きをしており、下線の部分は with+object+O.C. 形になるのである。以上の如く考えて来ると、with+object+ing 形及びそれに類似した形即ち with+object+形容詞、with+object+過去分詞、with+object+形容詞句という形は何れも用法上 with+object+O.C. 形になることが分るのである。

これ迄は普通に言われていることを例を挙げて説明したのであるが、問題は次のことにあ

ると考えられる。即ち先きに **with+object+ing** 形は用法上 **with+object+O.C.** 形になると述べたのであるが、これは **ing** 形を Present Participle (以下 P.P.と略) と考えた上でいえることである。いい換えれば、**with+object+ing** 形の **ing** 形が P.P. であれば、その **ing** 形は O.C. の働きをするといえるのである。ところが現代英語に於ては **ing** 形は Gerund (以下 Gと略) をも表わしているのであり、P.P. と Gとの区別は形の上からは全然出来ないものである。その点に、以上の **with+object+ing** 形の **ing** 形を P.P. と断定出来ない場合が出て来るのである。さて **with+object+O.C.** 形の中 **with+object+ing** 形以外の形の場合は形の上から明確なので問題はないと思われるので、今から P.P. と Gとの区別の困難な場合を述べることにする。その場合の例として次の場合を考えよう。即ち

Hobbs hurt his foot with a potato-barrel rolling on it.……(9)

この文に於ても下線の部分は先きに述べた(1), (2), (3)の各文と同様、**with+object+ing** 形と見ることが出来る。然しこれは形の上のことであって、下線の部分の句の構造が(1), (2), (3)の各文の下線の部分の句の構造と全く同じであるということは出来ない。それは意味を考えて見れば自ら分って来ると思う。前述の如く、(1), (2), (3)の各文に於ては下線の部分の句は意味上その前の文の動詞の表わす動作と同時に起る状態を表わしていると考えられる。即ち、(1)の文を次の如く書き直しても意味上なんら変りないと考えられる。即ち、

The old mother came as the sunset fell fair on her face.……(1') (この場合の **as** は～しながらという意味の接続詞である。) (1)の文を(1')の文に書き直してなんら意味上変化の無いということは、(1)の文の下線の部分の句の重要な要素である前置詞 **with** が(1')の文の下線の部分の節の重要な要素である接続詞 **as** と同じ文法上の働きをしているということである。即ち、(1)の文に於ては、前置詞 **with** は単にその前と後との語句を結びつけている接続の働きをしているに過ぎないのである。これに反して(9)の文に於ては、下線の部分の句の意味は、その前の文 **Hobbs hurt his foot** の原因を表わしている。即ち、下線の部分の句の重要な要素である **with** は原因を表わす前置詞で、(1)の文の如く単なる接続を表わすものではない。このことは更に(9)の文を～しながらという意味の時を表わす接続詞 **as** で始まる節を持つ次の文に書き換えると分る。即ち、

Hobbs hurt his foot as a potato-barrel rolled on it.……(9')

この文の表わす意味は(9)の文の表わす意味と一致しない。(9')の文に於ては「足を傷つけた」ということと「Potato-barrelが足に落ちた」ということが同時に起ったことを表わすが、(9)の文の意味は「Potato-barrelが足に落ちたので足を傷つけた」という意味である。ここに於て(1)の文と(9)の文とは形の上では **with+object+ing** 形であるが、意味上異なっていることが分るのである。意味上異なるということは、文の構造上異なるということである。それでは(1)と(9)の各文では文法上如何に異なっているのであろうか。先きほどから屢々述べているように、(1)と(9)の各文に於ては下線の部分の句の重要な要素は前置詞 **with** である。従ってこの前置詞 **with** の用法上の相異が(1)と(9)の各文に表われているのであると考えられる。このことは先きに述べた如く、(1)の文の **with** は接続詞と同じ働きをしており、(9)の文の **with** は原因を表わす純然たる前置詞の働きをしているという相異であるが、更にくわしく述べると、(1)の文に於ては **with** は単なる接続の意味を持って接続詞の働きをするので、その後に来る **ing** 形は動詞性を多分に含んで来る。従って(1)の文が(1')の文に書き直せることによっても分る如く、**with** の後に来る **ing** 形は P.P. と考えられる。それ故(1)の下線の

部分の形は with+object+P. P. の形と考えられる。然るに(9)の文に於ては、with は純然たる前置詞であるので、その後で当然目的語としての名詞(代名詞)を支配する。従って with の後に来る Potato-barrel rolling on it は全体が一つになって名詞の働きをしているといえる。即ち、この場合の ing 形は G で Potato-barrel はこの G の意味上の主語である。それ故(9)の文の下線の部分は、with+object+ing 形 (G) であると考えられる。この事を更に異なった面からもう一度考えて見よう。それは Sweet が 'Half-gerund' と呼んでいる分詞と動名詞の中間的存在である。'Half-gerund' とは要するに構文の上で動名詞とも分詞とも見分けがたい ing-form と言うよりはむしろ分詞の感じを与える動名詞を指すのである。例えば、I do not like him coming here.……(10) に於ける coming である。この場合 like なる他動詞の後にその目的語 him が来て、その後で coming なる ing-form が来ている。そして like の目的語はその後の him のように一見思われるが、意味上は him coming here 全体であることが分る。このことは(10)の文を次の如く直して見ると分る。即ち

I do not like him to come here.……(10')

(10)と(10')とは意味上全然変らないことが分るのである。(10)の文は coming の前に him なる代名詞の対格(目的格)を取るが、次の文と意味が同じである。即ち、

I do not like his coming here.……(11)

従ってこの coming は動名詞であると考えて良いと思う。この所有格を用いる(11)の文と対格を用いる(10)の文との間には如何なる差異が認められるか。Sweet は「仮に差異というものがあるとすれば、(11)の文は論理的の意味の強さは所有格にあり、(10)の文即ち、対格+動名詞では、それが動詞にある」(N. E. G. §2328)と言い、Curm は「主語が強調される場合にはきまって主語を対格として用いる」(Syntax P. 488)と前者と反対の意見を述べている。更に、You come to my island without me knowing about it.……(12)

なる文の如く前置詞の後ではその支配によって代名詞の対格が多いようである。更に Sweet は次の如き例も 'Half-gerund' と考えている。即ち、

She caught cold, sitting on the damp grass.……(13)

この(13)の文に用いられている ing-form は現代英語の形から見れば正しく分詞である。歴史的に見れば on-や a-が前接していた(はずである)ということ、国語、俗語または方言的な言い方では現に on-や a-が前接しているということ。これらの事実からこの ing-form を動名詞と見ることは、形にとらわれて機能を無視したと言わねばならない。この場合は動名詞として発生した ing-form が分詞に転化したと見るべきである。以上(10)、(12)、(13)の各文に於て、ing-form は(10)、(12)の場合は G、(13)の場合は P、と現代英語では見るのが正しいと思うが、Sweet は 'Half-gerund' と呼んでいるのである。さてこの最後の(13)の文に於て、sitting の前に with her を補った場合の文を考えて見よう。即ち、

She caught cold, with her sitting on the damp grass.……(14)

この(14)の文の場合は明らかに前述の(9)の文と同じくなり、「彼女はしめった草の上に坐ったので風邪を引いた」という意味となり、下線の部分は with+対格+G という形となる。ところが、(13)の文の意味は、「彼女はしめった草の上に坐っていて風邪を引いた」という意味で「坐っているうちに (while sitting)」でも又「坐っていたので (having sat)」でもない。従って(13)の文の下線の部分は分詞句ということが出来ると思う。以上から考えると、(9)の文の with を除いた文 Habbs hurt his foot, a potato-barrel rolling on it.……(15) なる文に

於ては *rolling* はやはり Sweet の言う 'Half-gerund' と考えられる。

従って(9)の文は *with* があるために *with*+動名詞句となり、理由の意味即ち、「Potato-barrel が落ちたので」という意味が強くなっているのである。それでは(1)の文に於て *with* を除いたら如何になるであろうか。即ち

The old mother came, the sunset falling fair on her face.……(16)

この(16)の文は(1)の文と意味に於ては殆んど同じである。従って(1)の文の *with* の存在は文全体にはそれ程影響を与えない。(16)の文の *falling* も Sweet の言う 'Half-gerund' ではあるが、現代英語では分詞と考えられるので、(1)の文の *falling* も分詞と考えて良いと思う。

以上 Sweet の言う 'Half-gerund' の立場から考えても、(9)の文の *ing*-form は動名詞であり、(1)の文の *ing*-form は分詞であると考えられる。これらを区別する場合、形の上からは区別出来ないので、常に意味上から判断してゆくより他に方法が無いと思う。

以上 'with+object+ing' 形の *ing* 形には P.P. の場合と G の場合とがあり、P.P. の場合には、'with+object+O.C.' 形となり、G の場合には、'with+object' 形即ち普通の動名詞句となることを知るのである。